報道関係各位

2023 年 10 月 25 日
沢井製薬株式会社

錠剤嚥下障害などで「錠剤を砕いて飲む」人が 100 人に 1 人

7 割超の人が「錠剤を砕いて飲む」ことのリスクを認知していない

「錠剤の粉砕服薬は効きすぎや副作用も多く危険」公的機関の警鐘が続く

飲みにくさを感じたら、まずは薬剤師や医師に相談を

沢井製薬株式会社（本社：大阪市淀川区、代表取締役社長：木村元彦）は、2023 年 9 月 28 日（木）～29 日（金）の間、50～70 歳代の男女計 2,000 人を対象に、患者さんなどによる服薬の状況と不適切服薬によるリスクの認知状況などを調べる調査を行いました。

「錠剤嚥下障害」は、薬を飲み込むことが難しくなり、本来飲み込んで胃腸に運ばれる薬が、口やのど、食道に留まってしまうことで薬の効き目に影響を与えたり、錠剤が留まった部分に粘膜損傷や潰瘍が発生したりする障害です。日本は 2024 年に 50 歳以上人口が 5 割を超えると予測され、「錠剤嚥下障害」を起こす人の増加が懸念されています。そのような中、錠剤嚥下障害の回避や飲み込みにくさを解消するために錠剤を砕いた服薬が行われ、「効き過ぎ」「効果低減」などの治療への悪影響や「苦みの増大」による更なる薬への抵抗感を引き起こすなどが問題となっています。

特に、「徐放性製剤※の粉砕投与」に関しては、2018 年と 2020 年に公益財団法人日本医療機能評価機構、本年 3 月には独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）から医療事故を防止する観点での注意喚起、あるいは「医療安全情報」が発出されており、「徐放性製剤が粉砕、分割して投与される事例が繰り返し報告されている」状況に警鐘が鳴らされている危険な状況が現在も続いています。

沢井製薬は、今後もこれらの調査活動や服用しやすいジェネリック医薬品の開発を通して、適切な服薬の啓発と服薬そのものの改善に努めてまいります。

※有効成分の放出速度などを調節することによる投与回数の減少、薬効の持続、副作用の低減などを目的に開発された製剤。

調査結果のトピックス

■3 割の人が薬などで飲み込みにくさを感じており、50 代女性で 4 割と最も感じている。

3 カ月以内服薬経験者の 3 割(29.8%)が、薬やサプリを飲むときに「飲み込みにくい」と感じている。年代別では 50 代(32.6%)が最も高く、特に 50 代女性の 4 割(40.5%)が「飲み込みにくさ」を感じている。

■飲み込みにくさを感じるのは「病院で処方された錠剤」で、「水の量が少ない時」と「錠剤が大きい時」。

約 3 割（27.3%）の人が病院で処方された錠剤を「飲み込みにくい」と感じており、「水の量が少なすぎた時」（34.1%）と「錠剤が大きい時」（29.8%）で飲み込みにくさを強く感じている。

■毎回の服薬時に飲み込みにくさを感じる人のうち、「砕いて飲む」など不適切な飲み方をしている人は 2 割超。

飲み込みにくさを感じたときの対処法としては、一般的な「水を多く飲む」(48.3%)が多く、次に「服薬用のオブラートを使って飲んだ」(3.4%)、「錠剤を砕いて飲んだ」(1.8%)があげられている。特に毎回の服薬時に飲み込みにくさなどを感じる人の 7.5 人に 1 人(13.3%)は、錠剤を砕いて飲んでいる。その他にも、「食事や飲み物に混ぜる」(2.2%)、「薬剤をカプセルから出して飲んだ」(6.7%)などの不適切な服用方法を合わせると 2 割超に及ぶ。

■「錠剤を砕いて飲む」ことのリスクに対する認知は低い。

錠剤を砕いて服用することで起きるリスクのうち、7 割超の人は「薬が効きすぎる」ことや「薬が効きにくくなる」ことを知らない(効きすぎる／74.2%　効きにくくなる／72.3%)。

■飲み込みにくさには、自分で対応する例が多く、医師や薬剤師などの専門家に頼ることは少ない。

約 3 割が飲み込みにくさを感じる一方で、「医師に相談」(1.6%)「薬剤師に相談」(0.4%)している人はわずか。

昭和大学薬学部客員教授　倉田なおみ氏に聞く（10 ページ）
錠剤嚥下障害などで薬が飲み込みにくくても、やってはいけない危険な行為と正しい服用の知識について

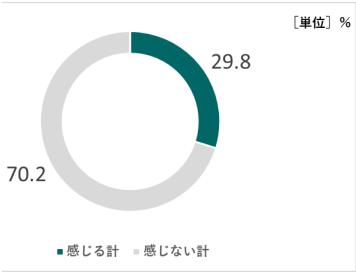
◆報道関係者様 お問い合わせ先◆
沢井製薬株式会社 広報室
TEL：06-6105-5718／E-mail：koho@sawai.co.jp

調査結果サマリー

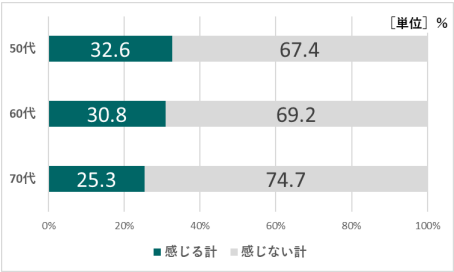
■3 割の人が薬などで飲み込みにくさを感じており、50 代女性で 4 割と最も感じている。

3 カ月以内服薬経験者の 3 割（29.8%）が、薬やサプリを飲むときに「飲み込みにくい」と感じている。年代別では 50 代（32.6%）が最も高い。特に 50 代女性の 4 割（40.5%）が「飲み込みにくさ」を感じている。

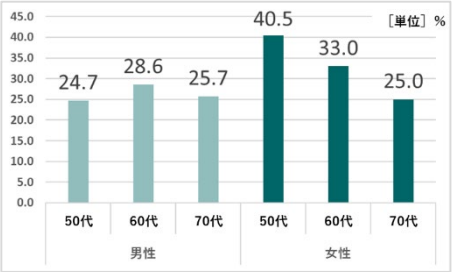
Q2.飲み込みにくいと感じたことの有無（n＝2,000）



Q2.年代別（n＝2,000）



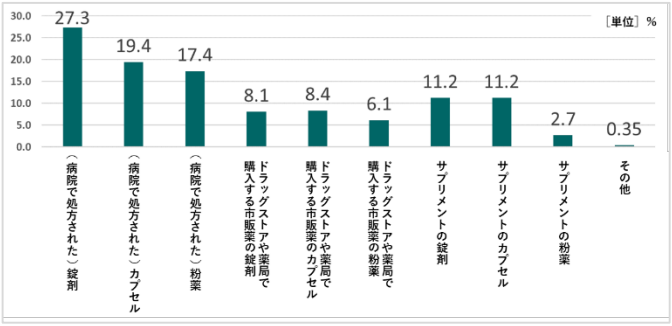
Q2.性別・年代別（n＝2000）



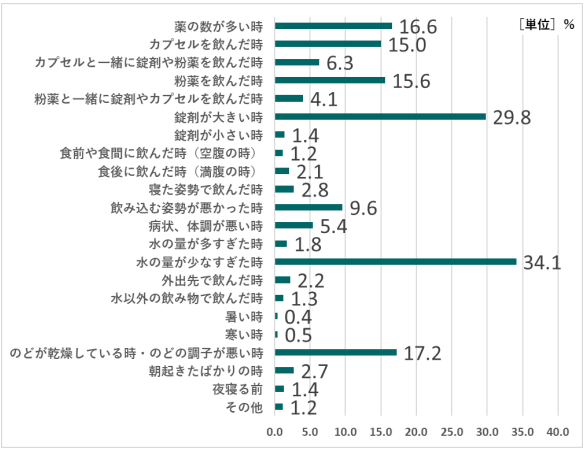
■飲み込みにくさを感じるのは「病院で処方された錠剤」で「水の量が少なすぎた時」と「錠剤が大きい時」。

約 3 割（27.3%）の人が病院で処方された錠剤を「飲み込みにくい」と感じており、「水の量が少なすぎた時」（34.1%）と「錠剤が大きい時」（29.8%）で飲み込みにくさを強く感じている。

Q3.飲み込みにくいと感じたもの（n＝2000 複数回答）



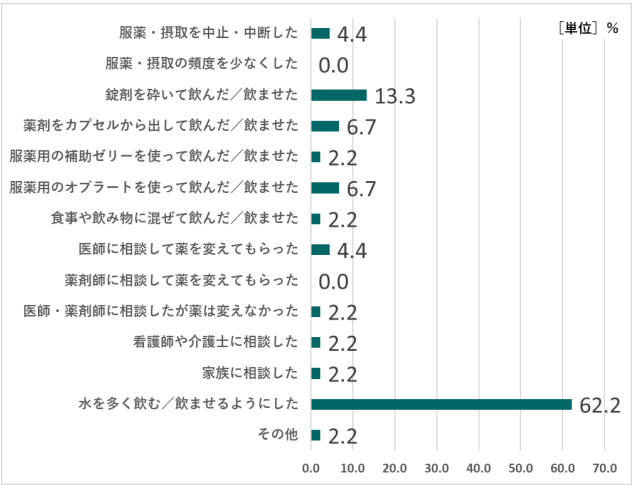
Q4.飲み込みにくいと感じる時（n＝2000 複数回答）



■毎回の服薬時に飲み込みにくさを感じる人のうち、「砕いて飲む」など不適切な飲み方をしている人は 2 割超。

「毎回の服薬時に飲み込みにくさなどを感じる人」の 7.5 人に 1 人（13.3%）は、錠剤を砕いて飲んでいる。その他にも、「食事に混ぜる」（2.2%）、「薬剤をカプセルから出して飲んだ」（6.7%）などの不適切な服用方法を合わせると 2 割超に及ぶ。

Q5.服薬時に飲みにくさを毎回感じている人の飲みにくい場合の対処（n＝45 複数回答）



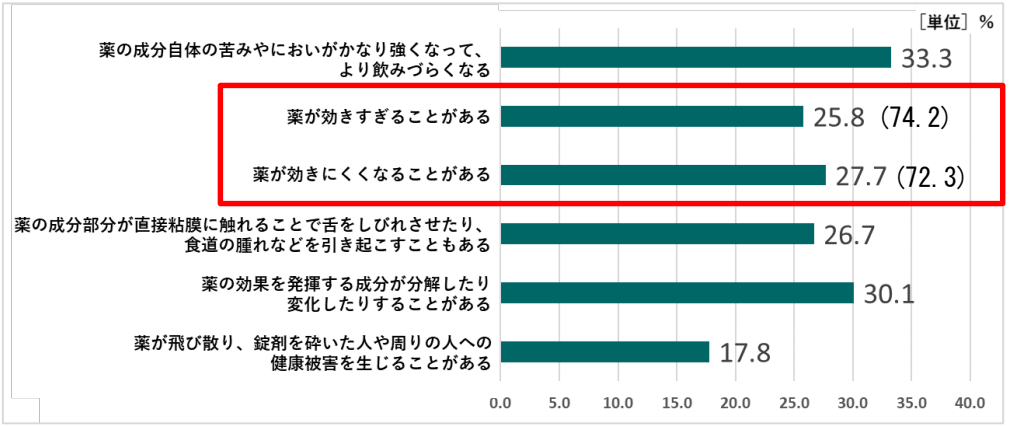
■「錠剤を砕いて飲む」ことのリスクに対する認知は低い。

錠剤を砕いて服用することで起きるリスクのうち、7 割超の人は「薬が効きすぎる」ことや「薬が効きにくくなる」ことを知らない（効きすぎる／74.2%※1　効きにくくなる／72.3%※2）。

※1　「薬が効きすぎることがある」ことを知っている人が25.8%しかおられなかった=74.2%の人がリスクの認知がなかった

※2　「薬が効きにくくなることがある」ことを知っている人が27.7%しかおられなかった=72.3%の人がリスクの認知がなかった

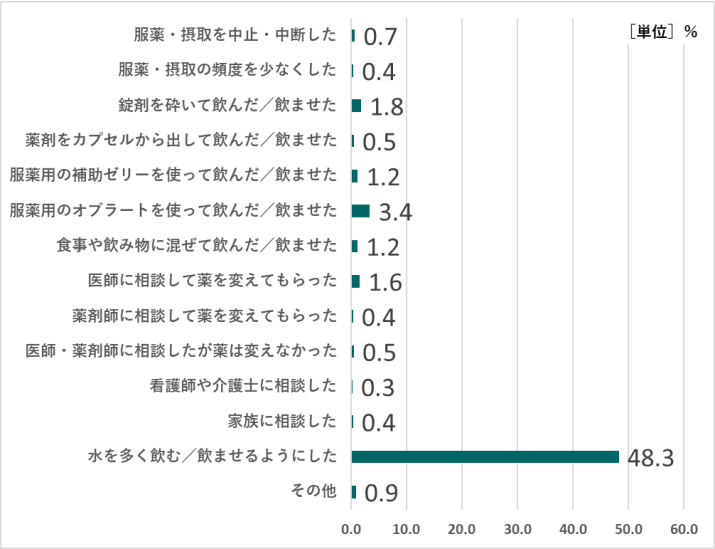
Q11.薬を砕くことによる問題点の認知（n＝2000）



■飲み込みにくさには、自分で対応する例が多く、医師や薬剤師などの専門家に頼ることは少ない。

約 3 割が飲み込みにくさを感じる一方で、「医師に相談」（1.6%）「薬剤師に相談」（0.4%）している人はわずか。

Q5..飲みにくい場合の対処（n＝2000 複数回答）



■沢井製薬 「加齢による錠剤嚥下障害や錠剤の粉砕に関する生活者の実態調査」実施概要

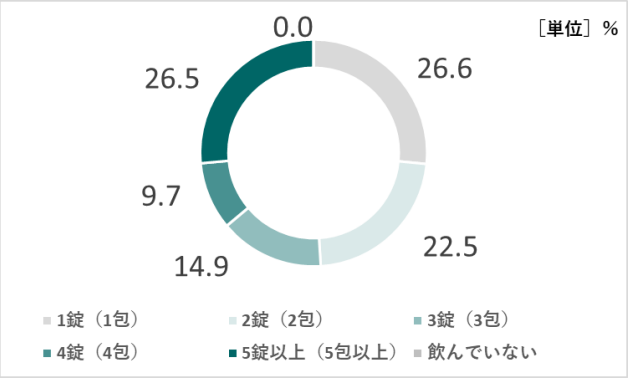
●調査時期：2023 年 9 月 28 日（木）～9 月 29 日（金）
●調査対象：合計 2,000 人対象
　　男性　963 人＜50 代：324　60 代 371　70 代 268＞
　　女性　1037 人＜50 代：326　60 代 391　70 代 320＞
●調査方法：インターネット調査
●調査委託先：（株）マクロミル

※構成比（%）は小数第 2 位以下を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。

調査結果

◆Q1.
あなたは最近 3 カ月以内に、薬やサプリメントを飲みましたか。飲んだ場合は 1 回の量をお知らせください。
※1 日 3 回、錠剤を 2 錠ずつ飲む場合は、「錠剤」を「2 錠」と回答してください。※薬の種類に関わらず1回の合計数をお知らせください。

●（病院で処方された）錠剤（n＝2,000）

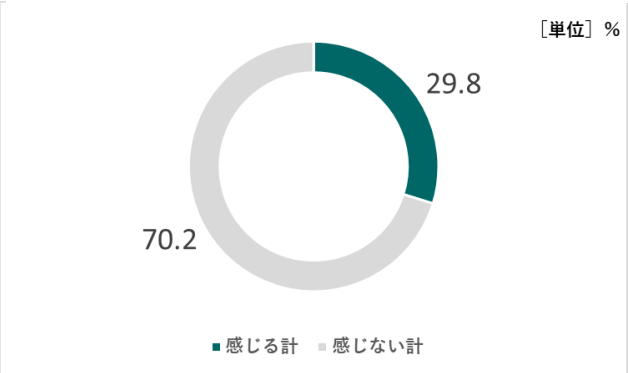


■嚥下障害のリスクは誰にでもあります

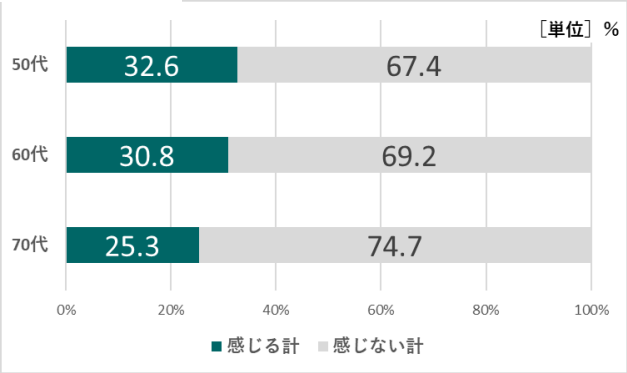
3 カ月以内服薬経験者の 4 人に 1 人（26.5%）が 5 錠以上の薬を飲んでいます。一度に飲む薬の量が複数に及んでいる人が多く、嚥下障害のリスクは誰にでもあるといえます。

◆Q2.
あなたは普段、薬やサプリメントを飲む時に「飲み込みにくい」「のどにつかえる」「のどにひっかかる」と感じることはありますか。

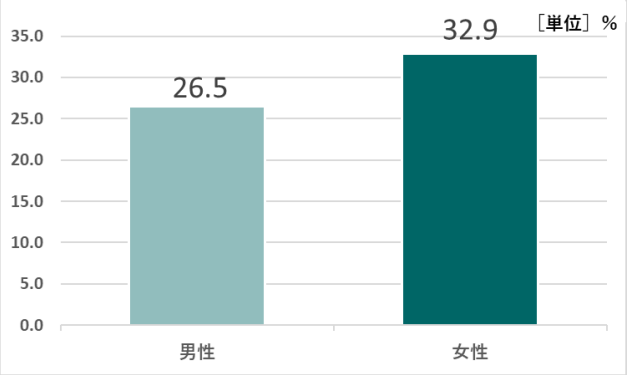
●飲み込みにくいと感じたことの有無（n＝2,000）　全体(n-2000)



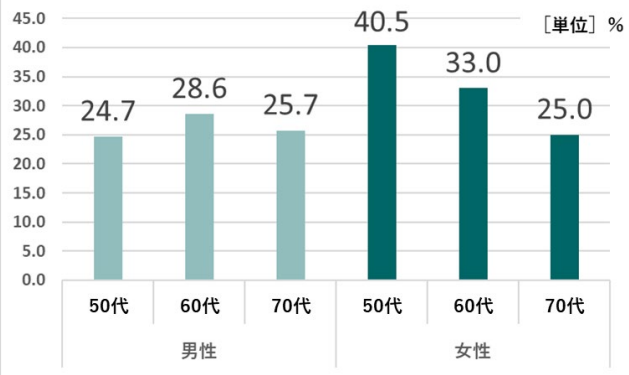
●年代別（n＝2,000）



●性別（n＝2000）



●性別・年代別（n＝2000）

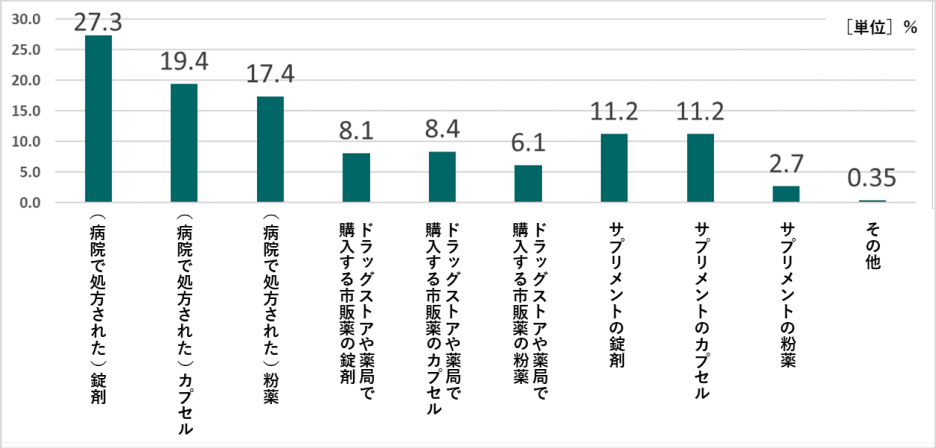


■薬などの飲み込みにくさを感じている人は 3 割で、50 代女性では 4 割と最も感じている。

3 カ月以内服薬経験者の 3 割（29.8%）が、薬やサプリを飲むときに「飲み込みにくい」と感じています。「飲み込みにくさ」を最も感じるのは、年代別では 50 代（32.6%）。男性（26.5%）より女性（32.9%）の方がより感じており、50 代女性の 4 割（40.5%）が最も「飲み込みにくさ」を感じています。

◆Q3.
あなたは普段、薬やサプリメントを飲む時に「飲み込みにくい」「のどにつかえる」「のどにひっかかる」と感じたものをすべてお知らせください。

●飲み込みにくいと感じたもの（n＝2000 複数回答）

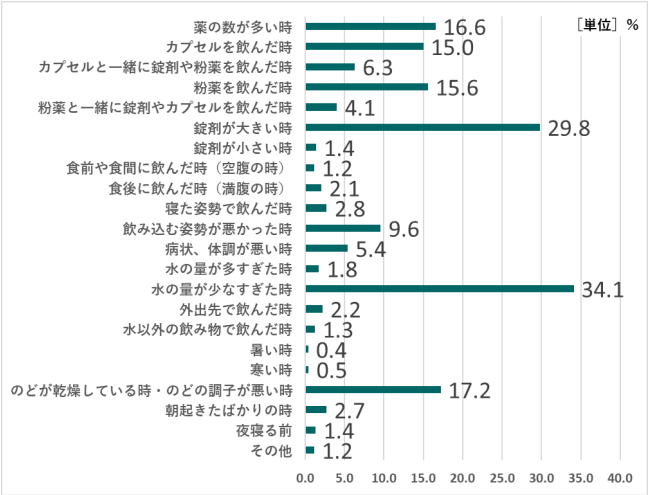


■「病院で処方された錠剤」は飲み込みにくさを感じる人が多い

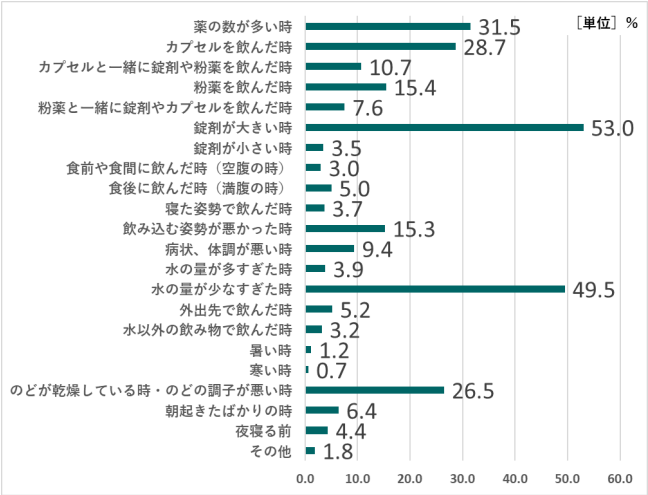
薬やサプリメントの中でも、特に飲み込みにくいのは、病院で処方された錠剤（27.3%）です。

◆Q4.
あなたはどのような時に薬やサプリメントが「飲み込みにくい」「のどにつかえる」「のどにひっかかる」と感じますか。あてはまるものをすべてお知らせください。

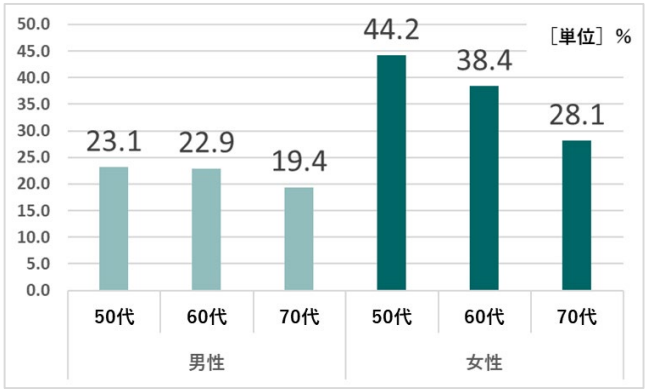
●飲み込みにくいと感じる時（n＝2000 複数回答）



●服薬時に飲み込みにくいと感じる人が、飲み込みにくいと感じる時（n＝596 複数回答）



●性別・年代別　錠剤が大きい時に飲みにくいと感じる割合（n＝2000 複数回答）

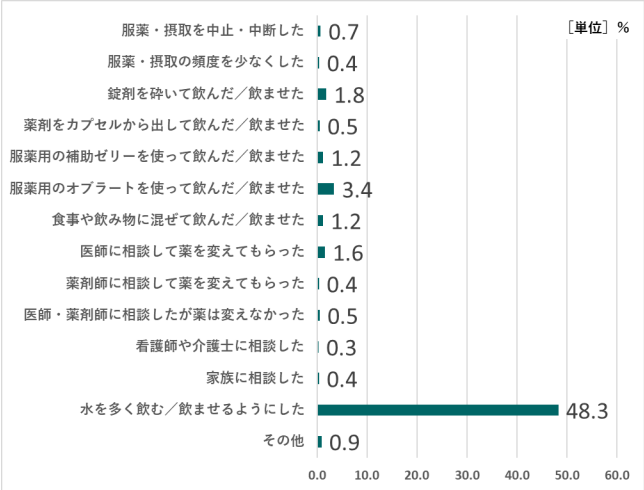


■錠剤の大きさ・形状は飲み込みにくさの大きな要因

飲み込みにくいと感じる瞬間は、「水の量が少なすぎた時」（34.1%）と「錠剤が大きい時」（29.8%）。飲み込みにくさを感じるのは、服薬時によく出くわすシーンが多いことが伺われます。なかでも50代の女性は、4割以上が「錠剤が大きい時」に飲み込みにくさを感じています。

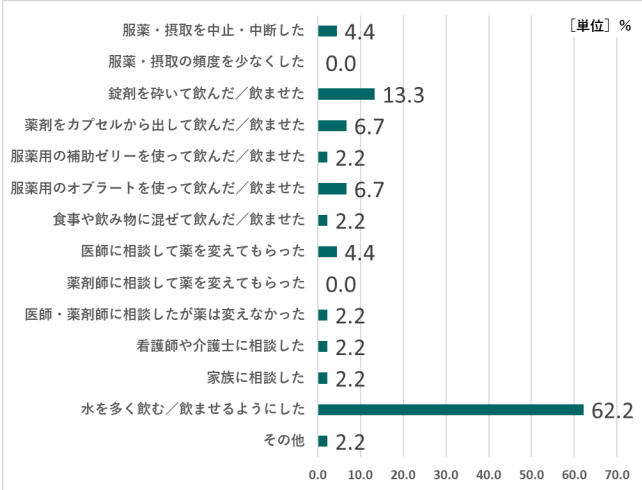
◆Q5.
あなたは、薬やサプリメントが「飲み込みにくい」「のどにつかえる」「のどにひっかかる」と感じた時に、どのようなことをしましたか。あてはまるものをすべてお知らせください。

●飲みにくい場合の対処（n＝2000 複数回答）



●服薬時に飲みにくさを毎回感じている人の飲みにくい場合の対処

（n＝45 複数回答）



■飲み込みにくさには、自分で対応する例が多く、医師や薬剤師などの専門家に頼ることは少ない

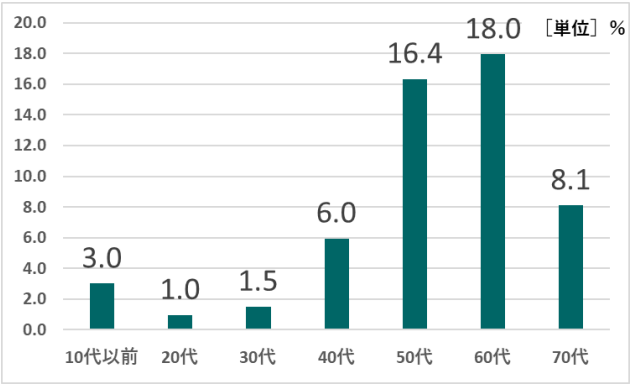
飲み込みにくさを感じたときの対処法としては、一般的な「水を多く飲む」（48.3%）が最も多く、次に「服薬用のオブラートを使って飲んだ」（3.4%）、3 番目には「錠剤を砕いて飲んだ」（1.8%）があげられています。

特に毎回の服薬時に飲み込みにくさを感じる人の 7.5 人に 1 人（13.3%）は、錠剤を砕いて飲んでいます。その他にも、「食事や飲み物に混ぜる」（2.2%）、「薬剤をカプセルから出して飲んだ」（6.7%）など、不適切な服薬をする人が見られました。

また、飲み込みにくさを感じる人が 3 割（29.8%）もいる一方で、「医師に相談」（1.6%）、「薬剤師に相談」（0.4%）している人はわずかです。

◆Q6.
あなたが薬やサプリメントを「飲み込みにくい」「のどにつかえる」「のどにひっかかる」と感じるようになったのはいつ頃からですか。

●飲みにくいと感じるようになった年代（n＝2000）

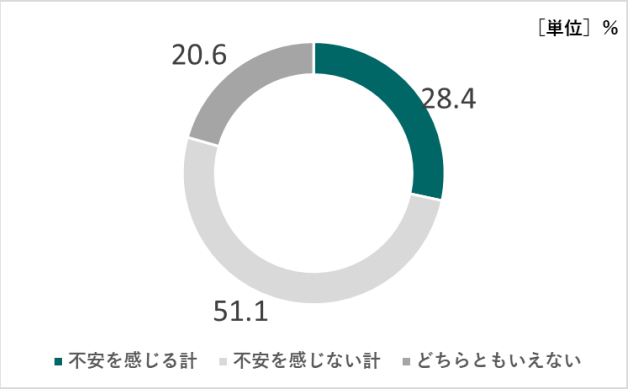


■飲み込みにくさを感じるのは 50 代から

「飲み込みにくい」と感じる年齢は、男女共に 50 代から顕著に増加しています（16.4%）

◆Q7.
あなたは薬やサプリメント、飲み物や食べ物などを「飲み込みにくい」「のどにつかえる」「のどにひっかかる」と感じることについて、どの程度不安を感じますか。
※今これらの症状がない方は、将来的に見てどの程度不安を感じるのかについてお知らせください。

●飲みにくいと感じることへの不安（n＝2,000）

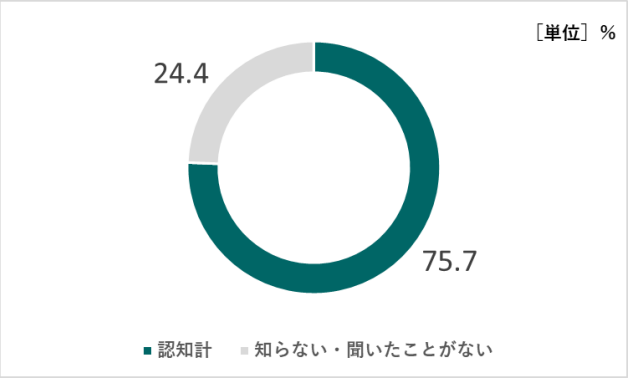


■飲み込みにくいことはやっぱり不安

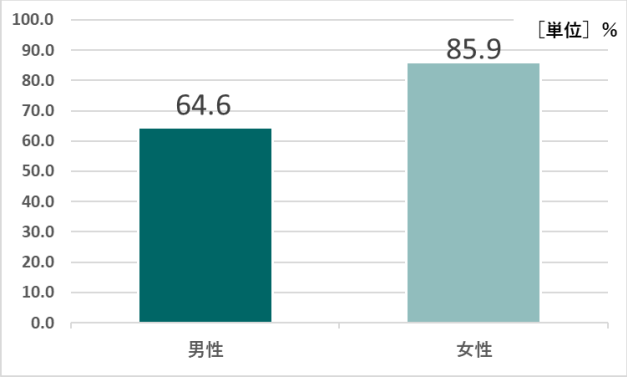
薬やサプリメントが「飲み込みにくい」と感じることに、約 3 割（28.4%）の人が不安を感じています。

◆Q8.
ところで、あなたは加齢が原因で、「嚥下障害」（えんげしょうがい：薬やサプリメント、飲み物や食べ物などをスムーズに飲み込めない状態になること）になることがあるのをご存じでしたか。
この調査にお答えになるまでにご存じだったかどうかについてお知らせください。

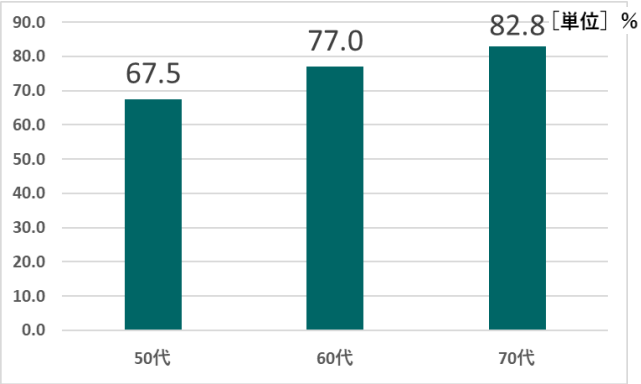
●嚥下障害の認知度（n＝2,000）



●認知している人の男女比（n＝2000）



●年代別　認知している人の割合（n＝2000）

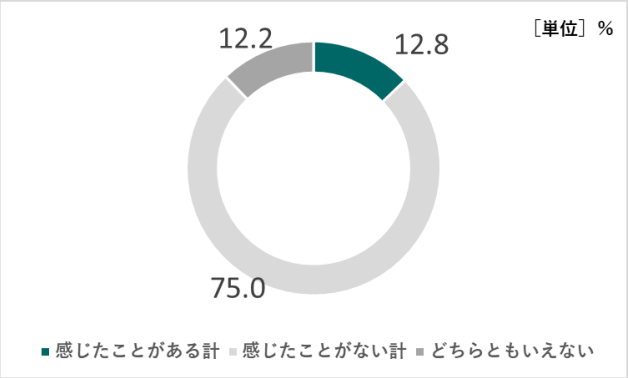


■「嚥下障害」という言葉は 75.7%が認知

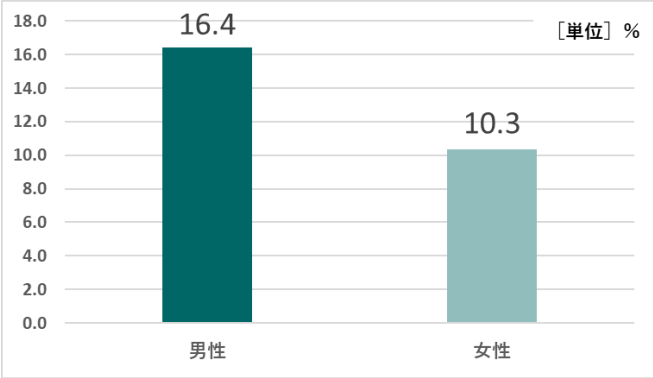
「嚥下障害」という言葉は 75.7%が認知。女性の 85.9%が認知していますが、男性の認知は 64.6%。70 代は 8 割以上が認知しています。

◆Q9.
あなたは、ご自身が「嚥下障害」かもしれないと感じたことはありますか。

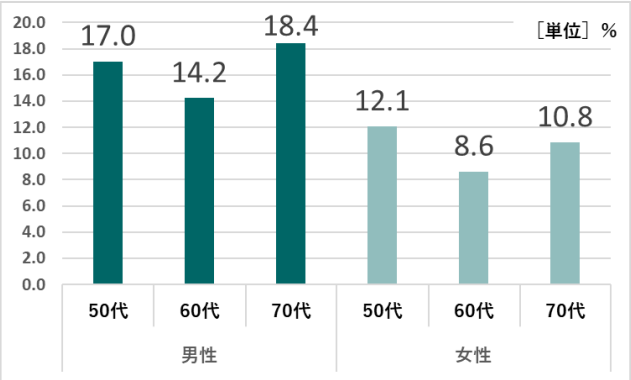
●嚥下障害かもしれないと感じたことの有無（n＝2000）



●嚥下障害かもしれないと感じたことのある人　性別（n＝2000）



●嚥下障害かもしれないと感じる人　性別・年代別（n＝2000）

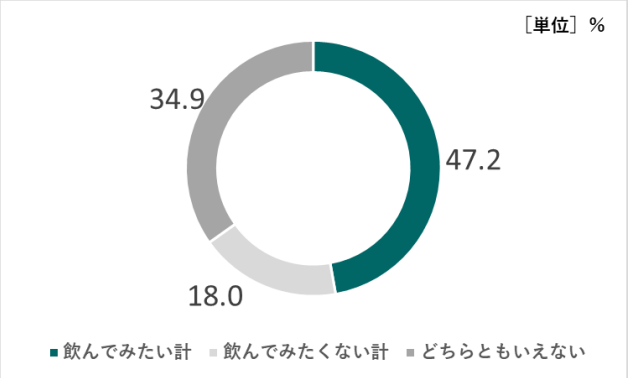


■自分が「嚥下障害」だと思う人は2割ほど

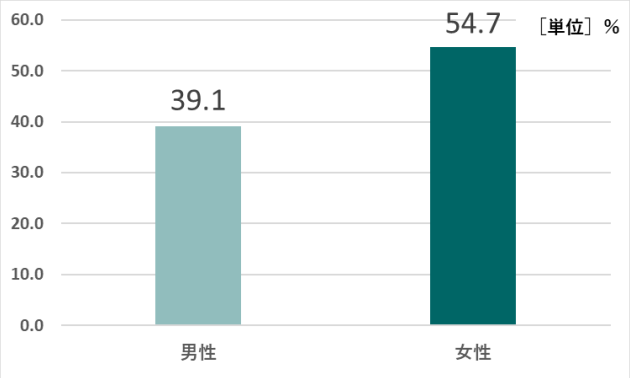
「嚥下障害」と感じたことある人は男性の方が高く（16.4%）。特に男性 70 代は 2 割弱が感じています。

◆Q10.
あなたは、「嚥下障害」の状態でも飲みやすい・飲み込みやすい薬があれば飲んでみたいと思いますか。
※今、症状がない方も想定でお知らせください。

●飲みやすい薬へ服用意欲（n＝2,000）



●飲みやすい薬へ服用意欲　性別（n＝2000）

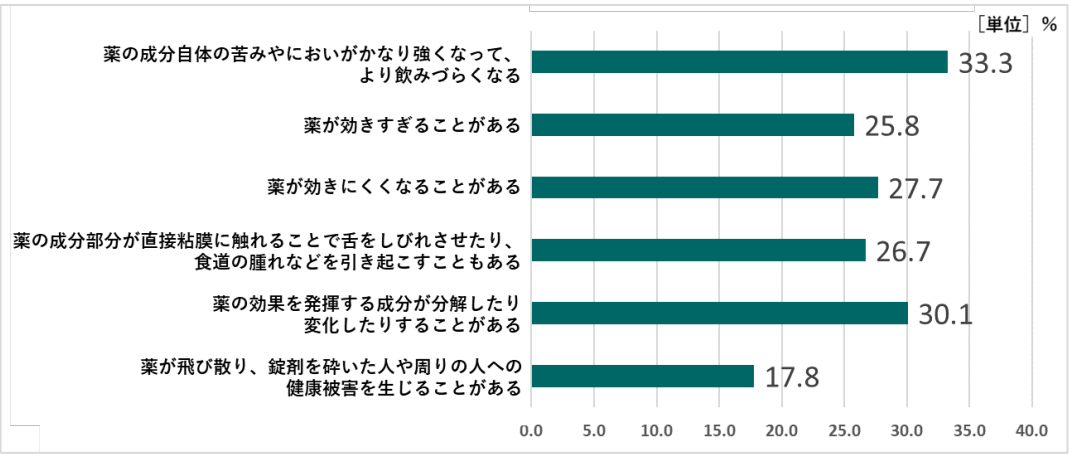


■飲みやすい薬に対しては女性の半数以上に服用意向があり

「嚥下障害」でも飲みやすい薬に対しては女性の半数以上（54.7%）に服用意向があります。一方、男性は低く 4 割（39.1%）の意向です。

◆Q11.
錠剤の薬やサプリメントが「飲み込みにくい」「のどにつかえる」「のどにひっかかる」と感じた時に、錠剤を砕いて飲むことは、以下のような問題点があります。
あなたは、錠剤を砕いて飲むことで、このような問題点があることをご存じですか。それぞれについてお知らせください

●薬を砕くことによる問題点の認知（n＝2000）



■薬を用法用量通りに飲まないことへのリスク認知は低い

薬やサプリメントが「飲み込みにくい」と感じたときに「錠剤を砕いて飲む」ことに対してのリスクの認知は 1 割～3 割程度。最も高い項目でも「薬の成分自体の苦みやにおいがかなり強くなって、より飲みづらくなる」（33.3%）、次いで「薬の効果を発揮する成分が分解したり変化したりすることがある」（30.1%）でした。

特に、「薬が効きすぎることがある」（25.8%）と「薬が効きにくくなることがある」（27.7%）などの患者さんの健康に悪影響を与える問題点の認知が 3 割に満たない状態です。

昭和大学薬学部客員教授　倉田なおみ氏に聞く

錠剤嚥下障害などで「錠剤を砕いて飲む」人がインターネットで回答できる人でも 100 人に 1 人。高齢者介護施設などではさらに高率。薬効や医療事故防止の観点から正しい服用を！

倉田なおみ（くらた　なおみ）氏

昭和大学薬学部　社会健康薬学講座　社会薬学部門・臨床薬学講座　臨床栄養代謝学部門　客員教授

昭和大学薬学部卒業後、昭和大学病院薬剤部入部。1996 年昭和大学藤が丘リハビリテーション病院　薬局長。2009 年昭和大学薬学部薬剤学教室　准教授、2014 年同学部　社会健康薬学講座　地域医療薬学部門（現、社会薬学部門）教授。2019 年同部門　客員教授。2021 年、同学部　臨床薬学講座　臨床栄養代謝学部門　客員教授（併任）。また日本臨床栄養代謝学会監事、日本医療薬学会代議員、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会評議員ほか役員を歴任。「疾患別に診る嚥下障害（共著）」（2013　年）「経管投与ハンドブック第　4　版」（じほう　2020　年）「頻用薬のこれなんで」（じほう 2021 年）「食事状況から導く薬の飲み方ガイド」（社会保険研究所　2023 年）など著書多数。

■加齢による「嚥下障害」は、誰にでも起こりうる障害。とりわけ錠剤の服用時には注意が必要

嚥下障害とは、疾患によってあるいは加齢に伴ってしだいに嚥下能力（飲み込む力）が衰え、食事や飲み物などを上手に飲み込めなくなる障害です。病院で処方される「錠剤」も飲み込みにくいものの一つで、この症状は「錠剤嚥下障害」と呼ばれています。「錠剤嚥下障害」が起きると、錠剤が口やのど、食道に留まってしまい、正しい投薬治療効果を得られなくなります。さらには、錠剤が留まった部分に粘膜損傷や潰瘍が発生するといった事態も引き起こします。

■錠剤を飲み込みにくいと感じた方がやってしまう決定的な失敗は、「錠剤を砕いて飲む」こと。

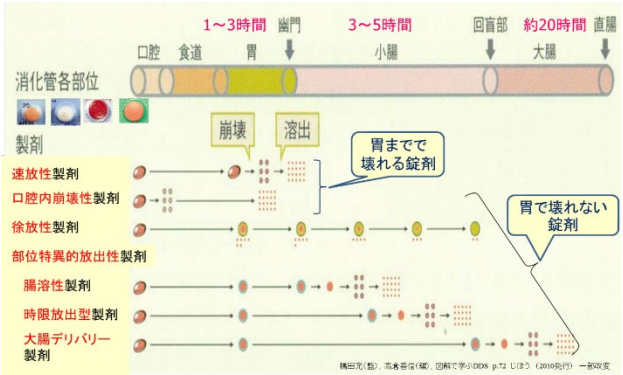
錠剤を飲みにくい場合、やってしまいがちな失敗が二つあります。一つは、苦痛が原因で服薬をやめたり、頻度を減らしたりすること。もう一つは、「無理やりにでも飲もう」とすること。本調査でもその傾向が見られます。特に服薬時にいつも飲み込みにくさを感じている方のうち、一割以上の方が「錠剤を砕いて」飲んでいます。これは、本人のみならず、ご家族も同様で、「少しでも飲みやすくしたい」との思いからしているケースが多いようです。しかし実は、「錠剤を砕いて飲む」ことが、最もやってはいけないことなのです。

■飲み込まれた錠剤は胃や腸に運ばれ、適した場所で壊れるように設計されている

なぜ、錠剤を砕いて飲んではいけないのか？　それは、錠剤は適した場所で壊れ、適した薬効を得られるように設計されているからです。砕いてしまうと、狙い通りに効かないだけでなく、効き過ぎて副作用や苦痛が生じることもあります。

特に、薬の成分がゆっくりと溶け出し、効果が長く続くように加工されている「徐放性製剤」を粉砕して服薬すると短時間で薬の効果が出て危険です。

●消化管内における錠剤の崩壊・薬物放出（溶出）部位



■公的機関からも繰り返し警鐘が鳴らされている「徐放性製剤の粉砕投与」

「徐放性製剤の粉砕投与」に関しては、2018 年の公益財団法人日本医療機能評価機構薬による注意喚起に始まり、2020 年に医療事故防止の観点から「医療安全情報」が、本年 3 月には独立法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）からも「医療安全情報」を発出。「徐放性製剤が粉砕、分割して投与される事例が繰り返し報告されている」として警鐘が鳴らされている危険な状況が現在も続いています。

■飲み込みにくさを感じたら、自分だけで判断・対応せず、医師や薬剤師などの専門家に相談を

本調査でも報告されていますが、飲みにくさを感じている方であっても、多くの方は医師や薬剤師などの専門家に相談することもなく、我流で判断して対処しています。今は飲みやすさを考えた剤形の薬もあります。少しでも飲みにくさを感じることがあったら、まずは専門家に相談することから始めてください。